

ほっこり ウィークリー

(毎週金曜日発行)

57号
2021
7.2

京都府立植物園

〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町
TEL 075-701-0141 FAX 075-701-0142
http://www.pref.kyoto.jp/plant/

園内で野鳥の死骸を発見されましたら、鳥インフルエンザの疑いもありますので絶対に触らずに職員や各門へお知らせください。



行事予定と今週ぜひ観ていただきたい植物の情報をお届けします！

※休園日は、年末年始(12/28~1/4)だけです。

※ 京都府立植物園公式ツイッターアカウント始めました！見頃の植物情報を中心につぶやいています。



第19回 富貴蘭展 中止!!

○期間：7月2日(金)～7月4日(日)

○場所：植物園会館1階展示室

○内容：富貴蘭約200点を展示(販売あり)

◆7/4(日)富貴蘭展 関連講習会

植物園会館2階多目的室 13:30～15:00(受付13:00～)

「富貴蘭の育て方(仮)」

夏休みクラフトアート教室

○日程：7月21日(水)、22日(木祝)

【午前の部】10:00～12:00

【午後の部】13:30～15:30

○場所：植物園会館1階展示室

○内容：「モザイクタイル」(ミニ植木鉢)

「ミニチュアで作る緑の窓辺」

「シャドーボックスで飾る壁飾り」

「フォークアート」「花模様の逆さ独楽(こま)」

「アロマワックスサシェ」

「カメラアで飾る花柄ウエットティッシュケース」

○申込み：当日受付(小学生以上)

※詳しくは、ホームページを確認してください。



ホームページ

アートボトル講習会(4) 募集中!!

7/8(木) 経験者の部 10:00～12:00

初心者の部 13:30～15:30

★山野草アートボトル同好会が作り方を指導 ★定員：各10名

★参加費：3,000円(別途、入園料が必要)

★事前申込：往復ハガキに講習会名、受講希望の回・部、住所、氏名、電話番号を明記 ★〆切：7/6(火)★会場：植物園会館2階研修室

夏の早朝開園

○7月9日(金)～7月11日(日)

○7月22日(木祝)～8月15日(日)

* 7:30から開園します

○朝顔展(7/30～8/3)開催中は

* 7:00から開園します

★涼しい早朝の植物園をお楽しみください!!

第9回 観蓮会 ～蓮を楽しむ3日間～

○期間：7月9日(金)～11日(日)

○場所：四季 彩りの丘

* 7:45～ 受付開始(各日定員：先着30名)

* 8:00～8:45 ハスを案内

○内容：(9日)金子明雄元園長による案内

(10、11日)企画係職員による案内

* 花ハスと碗蓮約200鉢を展示

「水曜ミニガイド」植物園認定が 仆がご案内!

※当面の間 水曜ミニガイドは中止させていただきます。

「副園長のほっこりガイド」

7月18日(日) 何処を歩くかはお楽しみ!

植物園会館前集合：午後2時スタート!

第30回 食虫植物展

○期間：7月22日(木祝)～8月9日(月休)

○場所：観覧温室(特別展示室)

○内容：ウツボカズラ、サラセニアなど100種類150鉢

を展示(販売：22日13:00～、23日～25日)

◆7/25(日)食虫植物展 関連講演会

植物園会館2階研修室 13:30～15:00(受付13:00～)

「新しい食虫植物の病害虫」 *定員：先着60名

講師：橋本正光氏

「土曜ミニミニガイド」 技術課職員が植物解説!

毎週土曜日は・・・

植物園会館前集合：午後1時スタート!

「植物園ガイド」が植物案内!

～見どころ案内・魅力解説・楽しさ倍増!～

① 7名以上のグループや団体で来園される方を対象

② 申込は希望日の10日前までに。(要相談)

③ ガイドは1時間程度。(無料)

* 申込先：京都府立植物園 TEL 075-701-0141

植物園芸相談

■ 毎週 日曜日 午前9時～正午、午後1時～午後4時

■ 電話075-701-0141



スマホdeガイド

QRコードをスマホで読み込み、「位置情報を利用する」に設定!

京都府立大学との共同により、スマホを使って園内の自分の位置が確認できる『スマホdeガイド』を作成! ‘おすすめ樹木めぐり’ ‘おすすめエリアガイド’などをスマホで確認し、植物観察!

※年間パスポート好評発売中

・1年間、何度でもご利用いただけるお得なチケットです!

大人1000円 高校生750円

・入園門でご購入いただけますので是非お買い求めください。

※温室観覧料は別途必要となります。

植物園HP!



今週の「探して！」
2021. 7. 2
57号

⑫ **アリストロキア・トリカウダ**
ウマノスズクサ科。メキシコ原産。花のように見える部分はガクで、3方に裂けて、その先端部が尾状に約10cm垂れ下がるのが特徴。そのことから、種小名のトリカウダはギリシャ語で「3つの尾状のもの」という意味から付けられた。

⑪ **ハナイカダ**
ハナイカダ科。日本各地と中国に分布。雌雄異株(雌雄の株が異なる)。葉の上に花が咲き、果実が実ることが特徴。葉の上に乗っている花や果実の姿を笈(いかだ)乗りに見立ててその名が付いた。果実は黒く熟す。

⑩ **スタンホペア・チグリナ**
ラン科。メキシコ原産。芳香があり、花粉媒介者であるシタバチ類の雄だけを誘き寄せる芳香物質を分泌する。この物質は種ごとに組成が異なっているため、誘引されるシタバチ類も種ごとに決まっており、種間の交雑を防いでいる。

⑨ **ネコヒゲ**
シソ科。インドやマレーシアに自生。花から伸びた雄しべが、猫のひげのように見えることから名が付いた。現地でも同様にマレー語で「猫のひげ」に当たる「クミスクチン」と呼ばれ、古くから薬草として重宝されている。沖縄では三大薬草の一つ。

① **ニュートンのリンゴ**
バラ科。アイザック・ニュートンは、リンゴが樹上から落下する様子を見て万有引力のアイデアを得たといわれ、この時のリンゴの木が「ケントの花」という栽培品種。この個体は原木が老衰で伐採される前に接ぎ木で増やされたうちのひとつ。

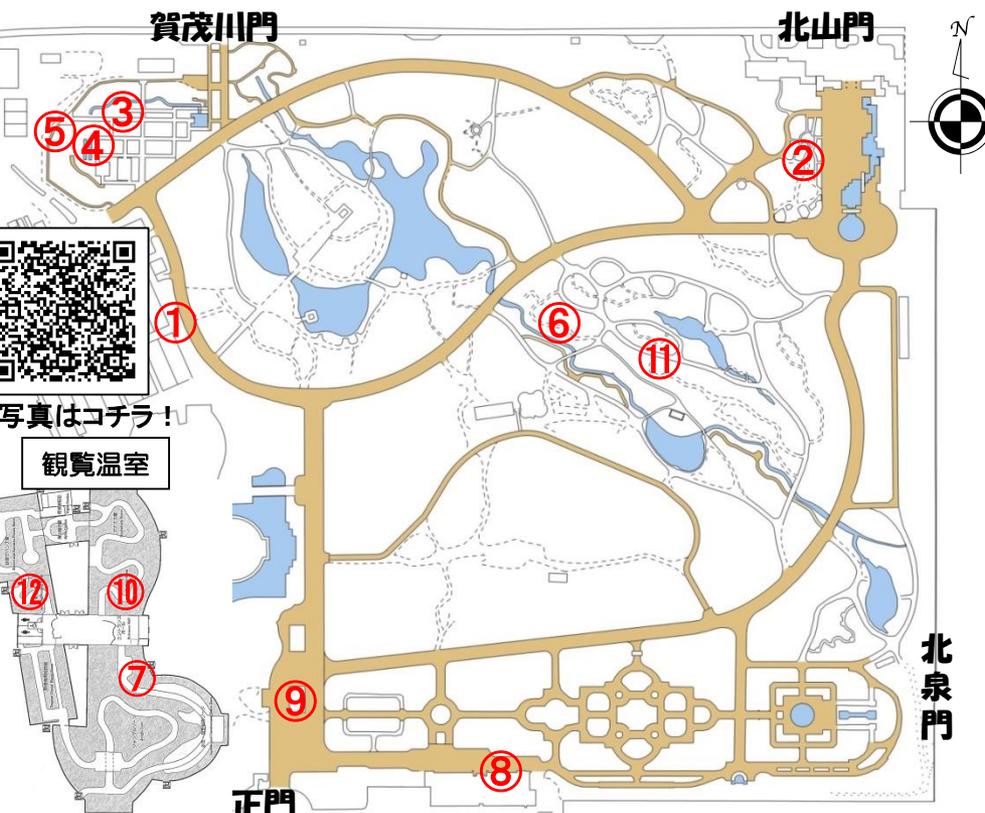
② **アガパンサス**
ヒガンバナ科。南アフリカ原産。別名「アフリカンリリー」と呼ばれるほか、君子蘭に似ていることから「紫君子蘭(ムラサキクンシラン)」という和名もある。ギリシャ語で愛を意味する「agape」と、花を意味する「anthos」が名前の語源。

③ **ノウゼンカズラ**
ノウゼンカズラ科。中国中部～南部に分布。日本には平安時代に渡来した。一つの花の開花期間は短い、夏の間は次々と新しい大輪を咲かせ続ける。花は落下した後も色あせず、美しい状態がしばらく続く。

④ **ハス**
ハス科。インド、中国、日本などに自生。花は日の出から咲き始め、昼頃には閉じてしまう。この開閉を約4日間繰り返した後、花びらが散る。和名の「ハス」は、花が散った後にできる果托(かたく)が蜂の巣に似ていることに由来。

⑤ **アーティチョーク**
キク科。地中海沿岸原産。和名では「チョウセンアザミ(朝鮮薊)」と呼ばれる。欧州や米国では若いつぼみを食用としている。元は野生のアザミであったが、古代ギリシャ・ローマ時代以降、品種改良が進んで今日の姿となった。

⑥ **ハンゲショウ**
ドクダミ科。本州以南、朝鮮半島～中国の水辺や湿地に自生。花穂の基部の葉が白く脱色し、花を目立たせている。和名は夏至の11日後の「半夏生(はんげしょう)」に花が咲くことや、葉が緑を少し残して白くなる「半化粧」に由来。



写真はコチラ!

観覧温室

⑧ **パッシフロラ**
トケイソウ科。属名のパッシフロラはラテン語で「受難の花」を意味し、花の形を十字架にかけられたキリストに見立てて付けられた。また、三分裂した雌しべが時計の針のように見えるため、日本では「トケイソウ」と呼ばれることが多い。

⑦ **ベニヒモノキ**
トウダイグサ科。西インド諸島やマレー半島に分布。枝の上部の葉の付け根から紅色の小さな花が密に集まった長さ20～50cmの花穂を出す。赤い花穂が垂れ下がっている姿が赤いヒモのように見えることから和名が付いた。